



小悪魔に孕まされたガール

小悪魔に
孕まされたガール



その日下校途中
私は突然はげしい
めまいに襲われました

そして
目を開けた
次の瞬間

いやあああつ!!

クワッ

クワッ



んぐっ

クワッ



ニンゲンノ
オンナダ

ヤレー

ヤッチマエ

私は得体の
知れない
バケモノに
襲われて
いたのです

私は身包みを
はぎ取られ
何匹ものバケモノに...



すべての力を
使った
抗いました

しかしそれは
無駄という言葉の
他ならない
行動でした

チュパ

ワカイ
オンナダ

ケケケケッ!!

もみっ
もみっ

パンパン
パンパン
パンパン

ケケケー!!

オ○ンコ
キモチイイゾ

私の頭を押さえ
手を押さえ
足を開き

何度も
オカされました

私は
何が何だか
わかりません
でした

ナメロオ

ケケケッ

ここはどこなのか？

どうして
こんな世界に
来てしまったのか？

むぎむぎ

むぎむぎ

むぎむぎ

そしてこの
バケモノたちは
何なのか…

クワエロオ

ケケケッ

ワカイオンナ
ヤルゾ

オ○ンコ
ヤルゾ

いやああっ！
イヤアアツ！！
誰か助けて
ええええ！！

ズッ
ズッ
ズッ

レ
ロ
レ
ロ

ズッ
ズッ
ズッ

しかし
そんな事は
もはやどう
でもいい事

私は
殺される恐怖に
身がすくみ

ひたすらに
助けだけを
求めていました

ケケケッ
キモチイイゾー





痛いっ…痛い
…苦しい

ケケッ

ケケッ

ケケッ

ケケッ

ケケッ

ケケッ

ケケッ

パニッ

パニッ

パニッ

パニッ

パニッ

私は男性と一度も
手をつないだことも
キスもしたことがなく

もちろん
セ○クスなどの
経験は一度だっ
てありませんでした



オカセ〜

オンナヲ
オカセ〜

んぐっ
んぐっ
んぐっ

ズボッ
ズボッ
ズボッ

私は
バケモノに
屈辱の限りを
尽くされ…

私は
自分がどうにか
なってしまうて
いました

ケケケ〜
オンナヲ
オカセ〜



うっ
うっ

早く
終わって欲しい

いっ
助
い
この
ま
ま
死
に
たい

私
は
た
だ
そ
れ
だ
け
を
願
う
よ
う
に
な
り
ま
し
た

たん
たん

たん
たん
たん

たん

たん

そして私は
いつのまにか
『殺される』という
恐怖は
なくなりました

コヲ
ウマセロ

むら

むら

ンロ

なぜなら
このバケモノたちの
目的は…
『繁殖』そのもの
だからだったからです

コヲ
ウマセロ

コヲ
ウマセロ

ケツケツケ



助けも来ない

以前の日常にも
戻れない

死ぬことも
できない

ズッ

ゴッ

ズッ
ズッ
ズッ
ズッ

ズッ
ズッ
ズッ



ケケケ〜

オカセ〜

ウマセロ〜

はんっ はんっ はんっ

はんっ

はんっ

私は
涙と笑いが
なぜか
こみ上げてきました

そう
私はこのまま
永遠にこうなのだ
と思えば思うほど

絶望で笑い出して
しまっているのです

シッコ
シッコ
シッコ
シッコ

コノオンナ
サイコー

チユホ

ああん

もつと
オカしてえええ!!

そしてそれは
徐々にカラダへの
快樂へと
変わっていき

チユパ

ケケケッ

バケモノに
オカされる
喜びに変換するしか
道はなかったのです

はっん

はっん
はっん

はっん

私は
バケモノを
受け入れます…

おしまい

















































